

平成31年度学校自己評価システムシート (県立川島ひばりが丘特別支援学校)

目指す学校像	・将来の自立や社会参加に向け、心豊かに、たくましく生きる力を身につけることのできる学校。 ・保護者や地域、関係諸機関から信頼され、誇れる学校。
--------	--

重点目標	1 児童生徒一人ひとりの可能性と力を最大限引き出す授業づくり 2 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための取組の推進 3 年間を通して児童生徒が健康で安全に学習できる環境づくり
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
年 度 目 標	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	
1	・人事異動により肢体不自由教育に初めて携わる教員を多く迎える現状を踏まえ、教育観、児童生徒の観察眼、目標設定、計画立案及び指導方法について、これまで培ったことの伝承が不可欠である。 ・本校の研究は前年度までの3年間で一定の成果を上げ、今年度はさらに発展させた新たな計画を立案する必要、また新学習指導要領の理念を活かした教育活動の改善を進める必要がある。 ・前年度末の学校関係者からは、評価指標を保護者アンケートに基づき数値化したことを評価いただいたことを踏まえ継続発展させる必要がある。	○組織的に教育力を向上させる	①【教員の資質向上】教員はすべからず研究修養とOJTに努める。ベテランは①児童生徒の見方や教育観、②指導の技能・技術、③児童生徒の健康と安全の保持向上、④保護者との連携体制の保持向上、⑤社会的常識・規範とコミュニケーション、について若手教員に対し適時的確な指導をし、自身の専門性を向上させる。若手は他からの教示を待つことなく、モデルとなる実践を取り入れるなど、柔軟に吸収する。 ②【教育活動の充実】個別の指導計画立案に際して「流れ図」を活用することにより、担任間の合意形成、共通行動を確実にするとともに、指導計画の妥当性を高める。 ③【ベクトルの揃った職務行動】あらゆる職務場面において協議及び合意形成を踏まえた共通行動をとる。 ④【ICT活用】授業や自立活動、自助具等としてのICT機器の活用を広げる。	保護者アンケートでの次の質問項目に肯定回答が増えたか、また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。 ①・教育目標等に基づいた教育活動を実践している ・学習指導は創意工夫されている ②・児童生徒の実態に合った計画・指導・評価が行われている ・プランBは実態をとらえ、日々の教育活動に反映され、適切に評価されている ③・ICTを活用した授業等がなされている	保護者アンケートの結果によれば、①の1問目では99.0%肯定的意見が、2問目も98.9%肯定的意見が得られた。方策どおり取り組んだ成果であると受け止める。②の1問目では95.7%の肯定的意見が得られた。課題関連図の活用を基盤とし、新たに「流れ図」を用いて中心的課題を捉え、教員間での情報共有により指導計画を具現化したといえる。2問目も96.8%肯定的意見があり、方策どおり取り組んだ成果であると受け止める。③では肯定的意見は61.3%を示した。今後さらに活用の機会を広げたい。	A	・新学習指導要領への対応と「流れ図」の活用により根拠を明確にしながら、社会に開かれた教育課程に接近する。 ・タブレットやデジタル教材、視線入力装置等を教育活動全般において積極的に活用する。ICTの活用により児童生徒の障害による制約を軽減する。
2	・学区内小中学校等の求めに応じた支援、就学支援等については、継続発展する必要がある。 ・支援籍学習の推進のほか、共生社会の形成に向け、情報発信や交流体験等を拡充して、本校及び本校児童生徒に対する理解を深める必要がある。 ・学校関係者による進路先福祉施設の利用促進と連携強化の指摘を踏まえ、卒業後の進路開拓を進める必要がある。	○共生社会の形成に向けた取組を進める	①【センター的機能の発揮】①近隣他校の求めに応じた支援の充実、②適時的確な就学支援の推進、③市町との協力による進路開拓と進路希望の実現、によりセンター的機能を発揮する。 ②【本校及び本校児童生徒に対する理解深化のための取組】①ボランティア養成講座、介護等体験等の本校での体験見学の積極的な受け入れ、②HP、広報誌等をとおした発信、により本校児童生徒及び教育活動に対する理解を深化させる。	①・学校外からの要請が、前年度程度を超えたか。 ・関係諸機関に対して成果を聴取し、すべての回答が肯定的だったか。 ②保護者アンケートでの次の質問項目に肯定回答が増えたか、また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。 ・交流教育は適切である ・支援籍学習は適切である ・配付物や配信により学校の様子がよく伝わってくる	①昨年度と比較し、教育相談は17件から30件に、巡回相談は202件から260件に増加した。5市2町に対し就学支援を行ない連携を深めた。進路開拓においては新規事業所への支援、福祉事業所と連携によりセンター的機能を発揮し今年度卒業生全員の進路保証に向け取り組んでいる ②保護者アンケートの結果によれば1問目では83.9%、2問目は支援籍学習を行っている方から96.8%の肯定的意見が得られた。3問目は地域の作品展への出品やHPをはじめとしたあらゆる機会を捉えて発信したことが評価され、こちらも95.8%肯定的意見が得られた。※支援籍学習(8市2町小29名、中5名)、ボランティア養成講座(5回・5名)	A	・医療的ケアの児童生徒に対応できる生活介護施設の充実のため、市町との連携を強化する。 ・本校入学にあたり齟齬を生じず充実した学校生活の実現のために早期の就学相談を継続する。 ・引き続き本校児童生徒に対する理解を深めていただくため、地域に根差した学校として、情報発信を続ける必要がある。
3	・医療的ケアは、保護者の理解協力を得ながら円滑に運営してきたが、これを維持向上させる必要がある。 ・児童生徒個々の状況を踏まえた緊急対応マニュアル作成、訓練等を重ねているが、発災時に十分再現できるよう、工夫する必要がある。 ・事故災害防止及び発災時に被害を最小限にとどめる工夫努力をさらに進める必要がある。	○児童生徒が健康で安全に学習できる学習環境を整える	①【安心安全の維持向上】これまで培ってきた事故防止のノウハウを踏まえ、①リスク感度向上及び危機意識共有による未然防止、②緊急時対応マニュアル及び訓練の、発生時における確実な実施、により正常性バイアスを徹底して排除し、安心安全の維持向上を遂げる。 ②【早期発見・早期対応の徹底】危機意識共有により経営課題を早期に発見し、発生時には①事実の正確な把握、②関係者心情の丁寧な斟酌、③改善を見届けるまでの丁寧な組織対応、を確実にする。 ③【良好な対人関係の構築】教員個々が力量を十分に発揮できない場合等に、負担感や不公平感を募らせることなく気軽に相談し補い支援し合えるような職場風土を醸成する。	保護者アンケートでの次の質問項目に肯定回答が増えたか、また、各学部・分掌等のシートが次の項目と連鎖する場合は、その達成状況を参考とする。 ①・施設設備は安全である ・医療的ケアは適切である ②・健康管理について、学校は保護者、医療機関と連携している ・HP、メール配信による情報は適切である ・保護者や外部の意見が十分反映されている	保護者アンケートの結果によれば、①の1問目は89.4%の肯定的意見が得られ、2問目では、学校で医療的ケアを受けている方から100%の高い評価が得られた。②の1問目では89.3%肯定的意見が得られ、2問目は93.6%肯定的意見が得られた。医療機関との連携は今後さらに深めたい。3問目は61.7%の肯定的意見があったが、「わからない」の回答が34.0%あった。	A	・医療的ケアに関しては、引き続き人工呼吸器を必要とする児童生徒の保護者の付き添いなど、課題を着実に改善していく。 ・事故、災害等を想定し、有事に迅速かつ的確に対応できるよう防災マニュアル改善と防災訓練の工夫を継続する。

学校関係者評価	実施日 令和2年2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・順調に進められている。職員の皆さんも子どもたちのために努力している事がよく分かった。生徒会長の言葉に周年行事を成功できたと思ったが、児童生徒と職員と一緒に作り上げた結果で、素晴らしいことである。現生徒会長、新生徒会長の話を聞いているだけで、学校がうまく機能し、成果を上げていることがわかる。 ・学校内で現在人工呼吸器を使用している児童生徒の保護者は、常に学校にいないといけないという制度のため、4名の児童生徒の保護者の負担が大きい。 ・人工呼吸器利用者は10年前に比べ増加しているという現実を受け、医療機関との更なる連携が必要である。 ・医療的ケアについて、制度と現実とのギャップを是正できるよう、引き続き学校として、県や市に訴えていきたい。 ・障害がある人に対する認知度・理解度の差を感じている。助けてほしいことを具体的に発信できる指導をしてほしい。 ・川島町はかわべメールで防災情報を配信している。輪中の里と言われ、土地の低いところであるが、台風19号の時は時間差で水が押し寄せてきた。より確実な防災となるようマニュアルを改善していきたい。 ・メール配信で学校の状況を保護者にお知らせいただいているが、双方で安否の確認ができる機能があると良い。